

緊急特集 コロナ禍の学校再開後、国立大学附属学校園の取り組み

長い休業期間が終了しなんとか学校を再開できましたが、感染症対策を伴う難しい学校運営が続いています。しかし、附属学校が苦労を重ねて実践している取り組みは、広く公立学校のモデル事例になると思います。

そこで、前号同様アンケートを実施し一部の学校園に寄稿を依頼しました。コロナ禍でも子どもたちに教育を提供する学校やPTAの取り組み事例が、少しでも参考になればありがたいです。また、広く周知していただければ幸いです。

秋田大学教育文化学部附属中学校

学校行事は、子どもたちの成長した姿や輝く個性などを保護者に確認していただく貴重な機会です。しかし、今年度は、感染予防のために、全ての学校行事を生徒と職員だけで行うことになりました。

そこで、中総体の激励会や合唱コンクール、校内駅伝マラソン大会などの学校行事の様子を、複数のカメラで職員が撮影し、参観を希望する保護者へオンラインでライブ配信しました。例年は仕事で学校に足を運ぶことができない保護者にも、スマートフォン等で子どもの頑張る姿を見ていただく機会を提供することができました。

今年度は、毎年10月に実施している総合的な学習の時間の成果発表会を、三密を防ぐために校内の15会場をICT機器でつないで、オンライン上で行いました。大型モニターを通じた発表会でしたが、例年以上に活発な意見交換が行われました。また、11月には、秋季授業研究協議会もオンラインで行いました。1つの授業を4台のカメラで撮影して配信

コロナ禍における開かれた学校づくり

し、オンライン上でも授業の臨場感が伝わるように配慮しました。

また、本校では、感染者発生時の対応をガイドラインにまとめ、保護者や地域へ適切に情報を開示できるようにしています。難しいことは、個人のプライバシーの保護と、他の生徒、保護者、地域の方々の知る権利の保障とを両立させることです。本校では、個人の特定につながる情報は開示しないが、他の生徒のPCR検査実施や保護者の勤務自粛の判断に必要な情報については提供することを基本にしています。濃厚接触した生徒の保護者へは保健所から連絡がありますので、学校への問合せはありません。そこで、保護者からの問合せに対しては「同じ学級(学年)ではありません」と回答することにしています。

今後も、先が見えない状況が続きますが、「コロナ禍だからできること」を言葉に、開かれた学校づくりに努め、保護者や地域の方々との連携を深めていきたいと思えます。



複数のカメラやタブレットの活用による授業のライブ配信

北海道教育大学附属釧路中学校

附属釧路中学校では、6月からの学校再開以降、感染防止に向けた様々な工夫や改善策を活かしながら学校運営を進めております。4月の緊急事態宣言後にスタートさせたオンライン授業に関しては、通常の対面授業に移行後も、学習支援アプリを有効活用するハイブリッド型授業に向けた教育研究が全教科で進められています。併せて、コロナ禍により教員研修機会が激減している状況と地域公立学校へのオンライン授業支援とGIGAスクール構想に貢献する授業力向上セミナー及び教員受け入れ研修を実施しています。6月以降も毎月1回、土曜登校日から土曜オンライン授業を実施し、生徒は自宅で午前のみオンラインにて授業を受けています。これは、本校教職員と生徒のICT活用スキルの維持向上と公立学校への研修機会の提供を目的として継続



月1回の土曜オンライン授業を、地域の教員研修事業として常時公開

地域に根ざす教員研修支援事業と新たなイベント開催

学校行事に関しては、例年9月に前日祭・文化祭・体育祭を3日間で行う最大の行事「附中フェスティバル」の開催も危ぶまれました。何としても生徒個々の創造性や他者との協調性、豊かな表現活動の場を保障するため、日程と内容を変更し、保護者、地域の理解と協力を得ることで、10月に実現しました。「全員が主催者、全員が観客」を合い言葉に、目指したのは「北海道のライジングフェス」です。生徒会が、生徒を代表し職員と共に地域の町内会に説明と協力を要請を行い、全生徒で挨拶回りとして、フライヤーのポスティングを学校周辺の住宅に実施しました。生徒の意見から終了時には、地域への感謝とコロナ収束祈願、フェスティバルの成功の想いを込めた打ち上げ花火も実現させました。今回は、感染拡大防止のため保護者や地域の方の入場は控えましたが、活動の状況はHPにて随時発信してきました。地域からの感謝と感動の声が、生徒たちに、今後、地域振興の火種になると確信しています。



地域町内会の理解で野外特設ステージにて実施したサンセットフェスin附中

北海道教育大学附

本校は総務委員会、事業委員会、4つの委員会組織のもとPTA活動、それぞれが目指す活動を「全員で集担にならないように」行えないかとしていただいております。コロナ禍ことを憂うのではなく、「何ができる保護者の姿は、子供たちにも大きなPTA活動の価値や意義を実感して、また、「Withコロナ」への対応ポストコロナを見据えた活動となる継続可能な方法を検討していただいて本校が今年度これまでに進めてきています。

「PTA総務委員会制作動画「救急救命」単P研修として限られた人数で「救」を実施

- ・動画を撮影し編集
- ・子供たちは給食時間を活用し学級で保護者は本校HPからYouTube
- *本校保護者のみへの限定公開のためです。

山梨大学附

新型コロナウイルス感染予防と園の運営行錯誤し取り組んできた本園の試みを改めて問い直したうえで内容を改定し、各学年各45分ずつ、運動会では、各学年各45分ずつ、日ごろの遊びをアレンジし、接触を避けつつ親子で楽しめると鬼ごっこをヒントにした5歳児「トンの代わりにしっぽを取って」実施後のアンケートでは、安心し得ました。



○クリーンルームなどの密回避避
「ルーム」として
昼食時にのみ
て食事ができ
業は昼食後の
減されています
防用シールド
で、子ども同

鳥取大学附属小学校

本校の学校行事の新しい考え方

これまで学校の行事は基本的に全員参加を前提とし、安全確保を第一に実施されてきた。感染者数が全国最少レベルの鳥取でも、今春以後これまで通りには実施できず、いくつかの行事を中止・延期した。しかし、中止となった場合、子どもたちにとっては唯一の体験の機会を逃す可能性もあり、教育の質的低下も懸念される。そこで感染予防対策がほぼ確立した夏休み明け以後、本校では行事の実施を前提として、あらゆる感染予防の対策と環境を検討・対応して授業参観や運動会を実施した。その結果、各行事のこれまでの課題も改善され、保護者の事後アン

学校行事の在り方

子ども用フェイスシールド開発への協力

鳥取大学の附属校園は、大学附属の特徴を活かし、学内のさまざまな人的・物的資源を相互に活用している。本校のキャリア教育と知財創造教育に協力して



熊本大学教育学

本校では5月の体育大会を10事にしました。まずは、大会の生徒が練習し達成感を感じる②集める③体育の授業との関連性を感染症への対応ができるという四また、個人競技は中止し、学級は実施すると方針を決め、生を募りました。学級対抗競技は台風の目(五人組で1列になりをなくし、「バレーボールを何という競技や「サッカーのパス